

インターネット
動向紹介

2024年10月～2025年1月のインターネットトピックス

INTERNET TRENDS introduction
2024.10 ▶▶ 2025.01

▶ IP Address Topic ▶ Technology Topic ▶ Domain Name / Governance

IPアドレストピック

IPアドレスに関する動向として、2024年10月23日(水)～25日(金)に開催されたARIN 54と、2024年11月19日(火)に開催された第47回JPNICオープンポリシーミーティング(JPOPM47)の情報をお届けします。



- 01 2024.11.19
東京都 / アーバンネット神田カンファレンス
JPOPM47
- 02 2024.10.23 - 10.25
カナダ / トロント
ARIN 54

第47回オープンポリシーミーティング報告

2024年11月19日(火)に、第47回JPNICオープンポリシーミーティング(JPOPM47)が開催されました。

第47回JPNICオープンポリシーミーティング開催のご案内

第47回JPNICオープンポリシーミーティングを2024年11月19日(火)に開催しました。ご参加いただきました皆様ありがとうございます。
本会は「InternetWeek2024」との新イベントとなります。

開催概要

日時
2024年11月19日(火) 14:00-18:00

会場
ハイブリッド開催
現地会場:アーバンネット神田カンファレンス 3D
東京都千代田区内神田3-6-2 アーバンネット神田ビル 3F
東京メトロ有楽町線 神田駅 1番出口 徒歩1分
JR山手線 神田駅 西口 徒歩2分
JR中央線 神田駅 西口 徒歩2分
オンライン:Zoom

JPOPMは、日本におけるインターネット資源のうちIPアドレス、AS番号といった番号資源の管理ポリシーを検討・調整し、コミュニティにおけるコンセンサスを形成するための議論の場です。年2回、JPNICとは独立した組織である、JPOPF運営チーム(JPOPF-ST)の主催により開催されます。また、プログラムは応募のあったポリシー提案や情報提供のプレゼンテーションを中心に構成しており、今回は情報提供が6件ありました。

▼開催概要

日 時	2024年11月19日(火) 14:00～18:00
場 所	アーバンネット神田カンファレンス + オンライン
主 催	JPOPF運営チーム
出 席 者	現地11名 / リモート53名
そ の 他	YouTube LiveおよびX(旧Twitter)による参加が可能でした
資料・議事録	https://jpopf.net/JPOPM47Program

▼各発表の詳細

○インターネット番号資源管理教室

JPOPF-STメンバーの中川あきら氏が、インターネットの番号資源に関する基礎的な内容を説明するプレゼンテーションを行いました。以

前は『JP PDP (JPNICにおけるPolicy Development Process) 解説』というタイトルでPDPを深く解説していましたが、初心者向けに話題を広く浅い方向にし、内容を一新したものです。番号資源について学びたい初心者の方々にはオススメの内容です。また、この内容を解説した動画がYouTubeのJPNICチャンネルにアップロードされています。ご興味のある方はぜひご覧ください。

インターネットの番号資源管理教室
～ IPアドレス・AS番号の管理について
<https://youtu.be/LA1h6ZF9ZnQ>



○インターネット番号資源ホットトピックス

JPOPF-STメンバーの谷崎文義氏がプレゼンテーションを行いました。『インターネット番号資源ホットトピックス』では、毎回インターネットに関する話題のうち、主に番号資源とポリシーに関わるものやその周辺を話題として取り上げています。今回は新しいドキュメント用IPv6アドレス(RFC 9637)、ドメイン名の維持費や『.io』や『.ai』ドメイン名の現在の状況などドメイン名に関する話題、APNIC 58で議論予定だったprop-159に関する話題などが取り上げられました。

RFC 9637 / Expanding the IPv6 Documentation Space
<https://www.rfc-editor.org/info/rfc9637>



○APNIC 58フェローシップ体験談

JPNICでは2015年度から国際会議参加支援プログラムとして、国際会議への参加を希望する国内の若手技術者・研究者に対して支援を行うプログラムを提供しています。今回はこの参加支援プログラムによってAPNIC 58に参加した橋本宏熙氏と島田怜奈氏に現地での体験を中心に報告していただきました。ここでは参加したセッションについての技術的解説や感想はもちろん、この体験を今後どのように

生かしていきたいかなど若手技術者ならではの視点での報告がありました。

JPNICによる国際会議参加支援プログラムは今後も継続的に行われるようです。詳細は以下のURLをご覧ください。

国際会議参加支援プログラム

<https://www.nic.ad.jp/ja/intl/fellowship-program/>
(過去の参加支援プログラムに関する資料も掲載されています)



○APNIC Update

2024年9月にニュージーランド・ウェリントンで開催されたAPNIC 58と実装予定のポリシー提案について、JPNICの中川香基から報告を行いました。実装予定の提案は以下の二つです。

どちらのポリシー提案も現在APNICで実装対応中であり、APNICでの実装方法を確認後、順次JPNICでも実装予定とのことです。

prop-154:「IXP向け割り当てアドレスサイズの変更」
prop-156:「IPリソースの一時的な割り当て」

また、アドレスポリシーに関する議論では4件の提案があり、いずれもコンセンサスには至りませんでした。

prop-157:「一時的なIPv4アドレス移転」
prop-159:「IPv6の最小割り振りサイズを/32から/36へ変更」
prop-160:「マルチホーム接続組織へのIPv6初期割り当てを/44に変更」
prop-161:「IoTへのIPv6アドレス使用」

prop-157はここ数回のAPNICミーティングで活発なポリシー議論が行われている『アドレスのリース』に関する提案です。prop-159はAPNICのメンバー費に関わるポリシー提案でしたが、当日提案者が出席しなかったため廃案扱いになりました。これに関する経緯は前述の『インターネット番号資源ホットトピックス』で詳しく取り上げています。

prop-161はメーリングリストでの議論において、現行のポリシーにはIoTに対応するポリシーは存在しないことが事前に指摘されました。ポリシーには具体的な記載はないが禁止もされていないため、解釈できる余地が残されているという判断から提案者から取り下げられました。

なお、APNICで検討中のポリシーは<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/>にリストされています。

○地域インターネットレジストリ機構の再検討 設立認定要件の改定議論

JPNICの前村昌紀からインターネットガバナンスの最新情報として、ICP-2 (Internet Coordination Policy 2) の制定に関する動向を紹介しました。ICPとは2001年に制定された新たな地域インターネットレジストリ設立の条件を定義した文章で、LACNICやAFRINIC設立の根拠となった文章ですが、現在のAFRINICのように地域インターネットレ

ジストリが機能不全になることが想定されていないという課題が発見されました。その課題を解決するために、現在NROを中心にICP-2の制定に向けて準備が行われています。

発表では、制定準備に至る経緯や原則案の紹介など密度の高い話題を取り上げました。ICP-2についてはJPNICブログで詳しく紹介しています。こちらも併せてご覧ください。

JPNICブログ

ICP-2 新RIR設立要件の改定作業:「原則案」に対する意見募集が始まりました。(和訳付き)
<https://blog.nic.ad.jp/2024/10159/>



○IPv6 PA・PIアドレスアーキテクチャーの維持 ～IPv4の経験を経て～

JPIXの中川あきら氏から、昨今におけるPAアドレスの利用のされ方についての問題提起と、その問題に対応したAPNICでのポリシー改定案の提示と議論が行われました。中川氏からはIPv4のPAアドレスがPIアドレスのように利用されている例が散見(例えばアドレスリース)され、このようなことがIPv6でも起こる可能性があることや、APNICのポリシー文章の割り振りに関する記述をIPv4とIPv6で同じ記述を採用すればこのような事態は防げるのではないかということが話されました。

また、議論では過去の経緯を含め多くの意見が出されましたが、IPv4で起こっている問題がIPv6でも起こることは避けたいという発表者の言葉が印象に残りました。

▼JANOGでも

2024年7月に奈良で開催されたJANOG54で、JPOPF-STの中川あきら氏と谷崎文義氏が『IPアドレスの管理・分配の世界を覗いてみよう!! ～インターネットを維持するために、とっても大切なこと～』というタイトルで発表を行いました。この発表では、アドレスの管理や分配についてのチュートリアル的な内容とポリシーの最新動向が取り上げられました。

2025年1月に京都で開催されたJANOG55ではJPOPF-STの中川あきら氏が『気になりますよねっ、IPv4アドレスの移転・売買・リースの実態!!』というタイトルで発表を行いました。特にIPアドレスのリースについては、関連するポリシー提案が最近のAPNICミーティングでは繰り返し行われ、その動向が注目されています。皆様ぜひアーカイブをご覧ください。

(JANOG54)

IPアドレスの管理・分配の世界を覗いてみよう!!
～インターネットを維持するために、とっても大切なこと～
<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog54/jpopf/>



(JANOG55)

気になりますよねっ、IPv4アドレスの移転・売買・リースの実態!!
<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog55/ipv4/>



ARIN 54でのIPアドレス・AS番号分配ポリシーに関する提案

2024年10月23日(水)から25日(金)の3日間、カナダ・トロントにおいて、ARIN54ミーティングが開催されました。ARIN (American Registry for Internet Numbers) は、北米とカリブ海周辺の一部地域を受け持つ地域インターネットレジストリ (RIR; Regional Internet Registry) の一つです。今回は、10月21日から開催されるNANOGと連続しての開催でした。

APNIC (Asia Pacific Network Information Centre) 地域と同様に、ARIN地域においても、IPアドレス・AS番号の分配ポリシーに関する議論は、メーリングリストのほか、オフラインミーティングの場でも行われます。



一方で、各RIRのポリシー策定プロセス (PDP) は独自の手法を用いることがあります。ARINですと、各ポリシー提案に対して「Policy Shepherds (ポリシーシェパード)」と呼ばれる担当をARIN AC (Advisory Council) からAC議長が任命します。この担当者はポリシー提案者とともに提案のブラッシュアップに努め、提案の実装へ向けて主体的に導く役割を果たします。

また、APNICなどでは提案は次のオフラインミーティングでコンセンサス確認まで行いますが、ARINではまず「Draft Policy」のステータスから始まり、オフラインミーティングでコミュニティによるコンセンサス確認は行いません。ブラッシュアップが完了し、ACによる承認が得られた場合、次のステータス「Recommended Draft Policy」に進むことができ、ここでコンセンサス確認を受けることができます。このように各RIRは各々の独自性のあるPDPの下、ポリシー策定を行っています。各地域の特性については、以下のブログ記事をご覧ください。

地域インターネットレジストリ (RIR) ってなに？

<https://blog.nic.ad.jp/2020/4910/>



今回のARIN 54ミーティングでは、12件の提案が議論されました。提案内容などの詳細は、ARINのWebページに掲載されています。

Draft and Recommended Draft Policies

<https://www.arin.net/participate/policy/drafts/>



注目すべき提案として、2件ご紹介します。

○ARIN-2023-8: Reduce 4.1.8 Maximum Allocation (最大割り振りサイズを/22から/24へ縮小)

IPv4アドレスの最大割り振りサイズ変更に関する提案です。ARINでは既にIPv4アドレスの在庫は完全枯渇に至っており、待機リストに並ぶことで返却されたアドレスから最大/22までアドレスを得ることができます。しかし待機リストには現在700組織が並んでおり、IPv4アドレスの入手に至るまでには相当な時間がかかる見込みであると提案者は述べています。

そこで最大サイズを/24へ変更することで、より多くの組織へ迅速に分配可能になると提案者は述べています。一方で/24というサイズでは事業者側からすると不十分であるという反対派や、既に待機リストからの分配は期待すべきでないという考えを持つ方、最大/22を維持し、待機リストに並べるのは初めてIPv4アドレスの割り振りを受ける人のみとするといった提案をされる方など、さまざまな考え方がMLでは挙がっていました。APNIC地域ではこのような事態にはなっていませんが、将来的に待機リスト制度を実装する場合の参考になると考えています。

カンファレンス中では、待機リストをこれ以上に触ってかき乱す必要性があるのか、現在待機リストに並んでいる組織は影響を受けるのか、申請資格にこれまでにIPv4の分配を受けていないことが入っているがこれにリーシングは含まれるのか、といったコメントが出ました。ステータス的には議論継続となるようです。

○ARIN-2024-8: Restrict the Largest Initial IPv6 Allocation to/20 (IPv6の最大割り振りサイズを/20に縮小)

IPv6アドレスの最大割り振りサイズに関する提案です。現在のARINポリシーではIPv6アドレスは最大/16まで割り振りを受けることができます。IPv4アドレスと比較して莫大な総数を誇るIPv6アドレスですから、以前はどんなに大きな事業者でも/20までの割り振りに留まってきました。

しかし、2023年10月に米国の金融系企業が/16のIPv6アドレスの割り振りを受けました。これはあまりに巨大な空間であり、IPv6アドレスと言えど、65,536個の空間、しかもこのうちグローバルルーティングが可能な/16は8,192個しかない中の一つを1組織に割り振るのは過剰であるとして、最大割り振りサイズを/20まで縮小しようという提案です。これまで莫大な空間からあまり検討されてこなかったIPv6アドレスの「割り振り上限」をどこに設定するのか、に注目しました。ディスカッション前の段階では賛成と反対が五分五分の様子でしたが、ランチの場で「コミュニティの方向性・合意とかけ離れるため廃案とすべき」との方向になったようです。その後のコメントも廃案に賛同するものしか現れず、10月30日付で廃案となりました。

ARINのWebページ (<https://www.arin.net/participate/meetings/past/>) には、ミーティング当日の発表資料、映像や発言録などが公開されています。これらを活用すれば、議論を振り返ることが可能です。

技術トピック

技術トピックでは、2024年11月上旬にアイルランドのダブリンで開催された第121回IETFミーティング (IETF 121)の様子と、ICANNがはじめた「KINDNS」という取り組みについてお伝えします。



03 2024.11.2 - 11.8
アイルランド/ダブリン

IETF 121



第121回IETFミーティング

▼ IETF 121のトピック

IETF 121は、アイルランド・ダブリンで2024年11月2日(土)から11月8日(金)まで開催され、参加登録者数は1,578名でした。

● Itojun功労賞とジョン・ポステル功労賞

IPv6の発展と展開に貢献した個人に贈られるItojun功労賞 (Itojun Service Award) は、IPv6を企業ネットワークに普及させるための持続的な活動を讃え、ジェン・リンコヴァ氏 (Jen Linkova) に授与されました。なお、IPv6の普及が組織主導型になってきていることを踏まえ、本賞は今年で終了しました。

ジョン・ポステル功労賞も授与されました。RFC1の著者で知られるスティーブ・クロッカー氏とアジア・太平洋地域での普及に貢献されたシン・リ (Xing Li) 氏です。両氏共に長年にわたるインターネットコミュニティへの貢献があらためて評価された形です。

● 参加支援

IETF 121では、合計約1,306万円 (83,475 USD) の支援が実施されました。IETFとIRTFの各々について参加支援プログラムが実施され、IETFとしては13件、IRTFとしては3件とのことです。リモート参加者についても支援が行われ、リモート参加者240名のうち44%が支援を受けたことになります。

▼ ハッカソンからのトピック

IETFにおけるハッカソンは、IETFミーティングが始まる週末に行われています。“プロジェクト”と呼ばれるテーマごとにチームに分かれて、プログラム実装の他、相互接続のテストや改修等が行われ、初日にキックオフし、二日目に結果発表が行われます。IETF 121では11月2日(土)から3日(日)にかけて開催されました。IETF 121におけるハッカソンの参加登録者は、現地参加が474名、リモート参加が53名でした。

特徴的なプロジェクトを以下に挙げます。プロジェクトの一覧と成果発表の資料は下記リンク先でご確認いただけます。

IETF 121 Hackathon | IETF Community Wiki
<https://wiki.ietf.org/en/meeting/121/hackathon>

IETF-121 : hackathon (アジェンダページ)

<https://datatracker.ietf.org/meeting/121/session/hackathon>

JPNIC News & Views IETF関連記事

<https://www.nic.ad.jp/ja/mailmagazine/backnumber/ietf.html>

○ トランスポート関連

- マルチパスQUIC相互接続試験 (Multipath QUIC Interop testing)
QUICのマルチパス実装の相互接続テスト

○ DNS関連

- DNS UPDATEを使った委譲同期のための自動化
(Automatic DNS Delegation Synchronization Using DNS UPDATE)

オープンソースネームサーバDNSに機能を追加し、子ゾーン (DNSSEC署名付きと署名なしの両方) と親ゾーン間の委任情報の自動同期の実装

- BIND9におけるDELEG実装 (DNS DELEG support in BIND)

DNSにおけるゾーンの委譲先についてNSレコードに比べて、ネームサーバがサポートするプロトコル (HTTP/2等) やDoH対応等、詳細な情報をSVCBレコードのような形式で記述するDELEGレコード。権威サーバの署名付きゾーンにおける実装が行われた

- DNSのCHAIN問い合わせの実装 (RFC7901)
(Support for DNS CHAIN Queries (RFC 7901))

DNS CHAIN Queryとは一連の署名付きレコードを1回のDNSクエリーで得て署名検証を行う仕組み。クライアント (フルリゾルバ) とサーバ (権威サーバ) の両方について実装が進められた

○ 暗号通信関連

- TLSクライアント・パズル (TLS Client puzzles)

TLSサーバがハンドシェイクの処理を開始する前に、TLSクライアントに計算作業を行わせる方法でDoS攻撃を防御するため仕組み。PoC (コンセプトを実装できることを確認するための概念実装) に取り組まれ、今後、さらにTLSにおけるDoS攻撃対策のための議論が行われる

○暗号技術関連

- 暗号アルゴリズムRocca-S (Encryption algorithm Rocca-S)

高速の処理が可能な暗号アルゴリズムRocca-Sの実装に関するハッカソン。5Gや6Gといった仕組みの中で使われる想定で開発が行われている。OpenSSLを使って実装されており、処理速度の計測などが行われた。日本からの参加者によって取り組まれている

- X.509における耐量子暗号 (PQC)、署名、KEM、プロトコル (Post-Quantum Cryptography (PQC) in X.509, Signatures, KEMs, and protocols)

X.509の電子証明書において耐量子暗号の実装を行い、技術標準にフィードバックを行う活動。“バージョン4”の証明書フォーマットを新設し耐量子暗号KEMの実装や証明書検証を行うことができるようにする実装が行われている

○ルーティング関連

- SRv6のためのBGPリンクステート拡張 (BGP-LS) のGoBGPにおける実装 (Implement GoBGP BGP-LS Extensions for SRv6 Service Chaining)

ソフトウェア・ルータGoBGPにおいてBGP-LSを実装するプロジェクト。データ表現 (タイプ・長さ・値) の定義とSRv6のためにリンク状態をBGPのNLRI (ネットワーク到達性情報) で扱うための形式に関する実装が行われている。日本からの参加者によって取り組まれている

- RPKI RTR更新 (rpki-rtr updates)

RPKI (リソースPKI) の署名検証済みの情報をルータに伝えるためのプロトコルRTRのPoC実装。RFC6810がバージョン0、RFC8210がバージョン1と呼ばれており、ASPAオブジェクトをサポートするものをバージョン2としてAPNICからの参加者によって取り組まれている

ハッカソンに関連して、2025年2月10日 (月) から9日間「IETF発! 技術ハッカソンをやってみよう ~第1回SRv6 SFC編~」をISOC日本支部と共催しました。IETFのハッカソンのように、国内でもネットワークプロトコルやプログラミングに興味のある方が学びながら手を動かせるようにと企画されたものです。今後の展開もご注目ください。

IETF発! 技術ハッカソンをやってみよう~第1回 SRv6 SFC 編~

<https://www.nic.ad.jp/ja/topics/2025/20250122-01.html>

KINDNS - DNS運用者への優しい手引

「KINDNS: Knowledge-Sharing and Instantiating Norms for DNS and Naming Security」は、DNS運用者に対して、そのさまざまな状況に応じたベストプラクティスを取りまとめているICANNのプロジェクトです。ルーティングセキュリティにMANRSがあるように、DNSにはKINDNSがあると言えます。

▼ KINDNSとは

KIND (優しい) とDNSをあわせてKINDNSと表記し、「カインドネス」(Kindness: 優しさと同じ) と発音します。KINDNSでは現在、三つのことに焦点をおいています。

- 運用者コミュニティにより積極的に取り入れられること
- KINDNSガイドラインへのフィードバックを収集整理し、現行のガイドラインに新たに加えるべきベストプラクティスを特定すること
- KINDNSガイドラインの自己評価ツールと監視プラットフォームを開発し、容易に運用とガイドラインとを比較できるようにすること

▼ KINDNS ガイドライン

KINDNSでは、権威サーバ運用者、リカーシブサーバ運用者、プラットフォーム強化の三つにカテゴリ分けを行い、それぞれに対して運用ガイドラインを提供しています。また、それぞれの中でもTLD権威サーバやISPのリカーシブサーバのような重要なインフラを運用しているのか、それとも通常の組織ごとのゾーン権威サーバや社内のリカーシブサーバを運用しているのかなど、状況によって細かくチェックすべき項目が分かれています。

典型的な例に従ってどのガイドラインが当てはまるのか、ガイドラインではどのようなことが求められているのか、といったことについて、次

のような項目で記されています。JPNICブログでさらにご説明しますので、併せてお読みください。

JPNICブログ「KINDNS - DNS運用者への優しい手引」

<https://blog.nic.ad.jp/2025/10513/>



▼ 権威サーバ運用者

権威サーバの場合、「TLDとクリティカルなゾーン」と「その他のゾーン」によって状況が2種類想定されています。ブログ記事では、一般的な「その他のゾーン」についてご紹介しています。

▼ リカーシブサーバ運用者

リカーシブサーバの場合、「プライベートリゾルバ」「共用プライベートリゾルバ」「パブリックリゾルバ」の3種類の状況が想定されています。ブログ記事では、社内用のリゾルバなどが該当する「プライベートリゾルバ」についてご紹介しています。

▼ プラットフォーム強化

権威サーバかリカーシブサーバか、どのような状況かに関係なく、すべての運用者が気にかけるべきベストプラクティスです。ブログ記事では、概要をご紹介しています。

KINDNSにはDNS運用のベストプラクティスがまとめられており、一見すると当たり前のことが羅列されているように見えますが、自信を持って「これらにすべて準拠しています」と言える運用をするためには十分な準備が必要です。運用要件の定義や日々のオペレーションの参考にしていただければと思います。

ドメイン名・ガバナンス

本稿では、2024年10月～2025年1月にかけての、ドメイン名およびインターネットガバナンスに関する動向として、第81回ICANN (The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers) 会議の様態をご紹介します。なお、インターネットガバナンス関連の話題については、P.7からの特集「IGF 2024参加報告」も併せてご覧ください。

04 2024.11.9→11.14
トルコ/イスタンブール

第81回ICANN会議



第81回ICANN会議

第81回ICANN会議(以下、ICANN81)は2024年11月9日(土)から14日(木)まで、トルコのイスタンブールで開催されました。今回は、新gTLDプログラム次回ラウンドの実施準備が着々と進む中で、ポリシーについても新たな展開がありました。また、秋のICANN会議は年次総会(Annual General Meeting)であり、理事の離着任のタイミングでもあります。本稿では、JPNIC職員が参加したセッションなどの中から印象に残ったものをご紹介します。



▼能力開発・参加型セッションが多く開催

今回のICANN会議で印象深かった一つには、能力開発や参加型・インタラクティブなセッションが多かったことが挙げられます。「How it works:」として、おそらくはICANN会議に参加しはじめて日が浅い方々に、基本として重要な事項を解説するセッションが五つありました。その他、以下に三つほど印象に残ったものをご紹介します。

○ ISPCP Capacity Building with OCTO

ISPCP (Internet Service Provider Connectivity Provider Constituency) は、分野別ドメイン名支持組織(GNSO)の中でも技術領域に近い部会なので、OCTO (Office of CTO) が何かの講習を

するというのは想像しやすかったのですが、このセッションではなんと、バーチャルマシンを参加者に一つずつ割り当てて、BINDを立ち上げてDNSSECの設定をするという極めて技術的なものでした。

ISPCP Capacity Building with OCTO

<https://icann81.sched.com/event/1p28B/ispcp-capacity-building-with-octo>

○ Joint Meeting: GAC and RSSAC

今回開催された政府諮問委員会(GAC)とDNSルートサーバシステム諮問委員会(RSSAC)の合同会議は、RSSACがルートサーバシステム(RSS)に関する基礎的な事項をGACに説明するという形式をとっていました。これはRSSACが非技術者におけるRSSへの理解を増進するために取り組んできた資料開発の成果として実施されたもので、DNSやRSSに関して非常に分かりやすく説明しています。

Joint Meeting: GAC and RSSAC

<https://icann81.sched.com/event/1p2Jq/joint-meeting-gac-and-rssac>

○ Joint Session: GNSO RrSG & ICANN: Perspectives on Accuracy

レジストラ関係者会議とICANN事務局という珍しい組み合わせで、登録データ正確性に関するインタラクティブなセッションでした。レジストラ認定契約(RAA)における登録データ正確性に関する規定をおさらいした上で、ISP、ビジネス、セキュリティ、法執行、登録者という五つのそれぞれの立場からデータ正確性を議論するグループワークを行い、その結果をセッション最後に共有しました。

Joint Session: GNSO RrSG & ICANN: Perspectives on Accuracy

<https://icann81.sched.com/event/1p2Ko/joint-session-gnso-rrsg-icann-perspectives-on-accuracy>



新事務総長 Kurtis Lindqvist氏による挨拶

▼新gTLD次回ラウンド実施準備の進展

さまざまなセッションで状況報告が提供されましたが、次回ラウンド実施に向けたプログラムである、申請者支援プログラム(ASP)やレジストリサービスプロバイダー(RSP)評価プログラムは会期直後の11月19日(火)に開始されるとあって、関心が高かったです。新gTLD募集の詳細要領が示される申請者ガイドブック(AGB)の作業に関しては、明確に2025年12月までに確定版を公開するという見通しが示され、順次意見募集にかけていくとのことです。また、会期中の公開理事会では次回ラウンドにおける方針として、競合セットの解決のために2012年ラウンドでは許されていた私的解決の禁止と、TLDラベルの文字列に関して単数形複数形どちらか片方が登録された場合、もう片方は登録を禁止するという二つの方針が決まりました。

ICANN理事会 2024年11月14日会合決議

<https://www.icann.org/en/board-activities-and-meetings/materials/approved-resolutions-regular-meeting-of-the-icann-board-14-11-2024-en>

▼ASO ACによるICP-2(新RIR設立要件)改定作業

ASOでは、AFRINICの機能不全に伴う対応として、ICP-2(Internet Coordination Policy 2)「Criteria for Establishment of New Regional Internet Registries」(新RIR設立要件)の改定作業を進めており、2024年10月に改定版の「原則案」と呼ばれるドキュメントを公開し、意見募集を行っていました。それを受け、ICANN81では会期中に八つのワークセッションを開催し、検討を進めました。ICANN81のワークセッションでは、原則案に対する表明意見のあらましを確認し、今後のスケジュールや作業要領が主な議題でした。

JPNICブログ:ICP-2 新RIR設立要件の改定作業:「原則案」に対する意見募集が始まりました。(和訳付き)

<https://blog.nic.ad.jp/2024/10159/>

▼年次総会:理事の去就

既に任期半ばで退任した国コードメイン名支持組織(ccNSO)選出のKatrina Sataki氏の他に、今回は指名委員会(NomCom)選出のDanko Jevtovic氏とEdmon Chung氏がそれぞれ2期、1期を務めて退任となり、新たに、米国で大使などの要職を歴任したMiriam Sapiro氏と、インドでインターネット黎明期の貢献が著しいAmitabh Singhal氏が着任しました。また、IETFリエゾンがDavid Lawrence氏に交代となりました。公開理事会の直後には、2025年の陣容で迎える最初の理事会、組織会合となりますが、議長は引き続きTripti Sinha氏、副議長には新たにChris Chapman氏が選任されました。また、2024年12月9日(月)にLindqvist氏が着任するため、それまでの暫定事務総長であるCosterton氏とともに、期間指定の上で幹部職員の指名が行われました。

▼第71回ICANN報告会

第81回ICANN会議での議論を紹介する報告会を、2024年12月9日(月)に、JPNIC会議室およびオンラインのハイブリッド形式にて開催いたしました。当日のプログラムは次の通りです。

1. ICANN81会議概要報告
2. ルートDNSサーバーシステムに関する報告 -RSSACとRSS GWG-
3. 理事会とASOを中心とした報告
4. 国コードメイン名支持組織(ccNSO)関連報告
5. ICANNの技術政策情報に関する報告
6. レジストリ・レジストラ関連状況報告
7. 次期新gTLD申請手続きポリシー検討状況報告
8. ICANN政府諮問委員会(GAC)報告
9. ブロックチェーン名前解決システムに関する報告
10. RDRSとレジストラにおける身元確認について

第71回ICANN報告会の資料と動画は次のURLで公開していますので、本稿と併せてぜひご覧ください。

第71回ICANN報告会

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20241209-ICANN/>



▼第82回ICANN会議

次回会合である第82回ICANN会議は、米国・シアトルで2025年3月8日(土)から13日(木)まで開催されました。このシアトル会議の内容は、次号90号でご紹介します。

ICANN82 Seattle Community Forum

<https://meetings.icann.org/en/meetings/icann82>

